

総合的な探究の時間の第1の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解できるようにする。
- (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

【目指す学校像】

- (1) 知(確かな学力)、徳(豊かな心)、体(健やかな体)のバランスのとれた「生きる力」を育み、心身ともに健康で、地域や社会に貢献しようとする人間を育成できる学校
- (2) キャリア教育の充実を図り、生徒一人一人の興味・関心や特性に応じた進路指導ができる学校
- (3) 保護者や地域社会との連携を深め、生徒・保護者・地域社会に広く信頼される魅力ある学校

各学校で定める目標と育成する資質・能力

- 自らを律するとともに、生涯にわたって学ぶ意欲を持ち、多様な他者と協働して、地域や社会に貢献しようとする生徒。
- 将来を見据えて、主体的に行動し、自身の可能性を切り拓こうと学習や特別活動に積極的に取り組む生徒。
- 自分の興味・関心について深く掘り下げ、十分理解し、学校行事、キャリア教育、多彩な特別活動を通して進路発見・実現に努める生徒。

総合的な探究の時間の学習評価

- ポートフォリオを活用し、生徒自身の探究活動状況の記録に基づく評価
- 生徒自身の振り返りによる客観的な評価
- 探究学習の成果を発表し合い、生徒同士がお互いに評価し合う相互評価
- 観点別学習状況を把握するための評価規準を設定する。

生徒の実態

- 素直でまじめな生徒が多く、また親切である。
- 自律心が弱いため、公共心および規範意識が十分に育っていない。
- 基礎学力の定着が不十分なため、自己肯定感が低い。そのため前向きに行動することや自尊感情の涵養の妨げとなっている。

生徒の発達をどのように支援するか

○配慮を必要とする生徒への指導

必要に応じて、保護者や関係機関との連携を図り、一人一人の実態に応じた必要な指導、支援を行う。

目指す生徒の姿

- 学習を進路決定や自らの人生を豊かにするための課題として捉え取り組む生徒
- 基本的生活習慣を確立し、規範意識を身につけ社会に貢献できる生徒
- 地域で学び、地域を支え、次代を担う生徒

各学校が定める内容(目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力)

【知識および技能】

- 自分を取り巻く社会に広く目を向け、自己の在り方や生き方を踏まえ、課題を見出す。
- 課題を設定し、必要な情報を多方面から収集する。
- 多面的・多角的に収集した情報を分析し、取捨選択する。

【思考力、判断力、表現力等】

- テーマに関する情報を整理・分析し、論理的に、わかりやすくまとめる。
- まとめたことを他者に伝えるため、適切な方法を用いて、表現する。
- スライドによるプレゼンテーションやポスターの作成などで表現する

【学びに向かう力、人間性等】

- 自分で設定した目標に対して、課題解決に向け主体的に取り組もうとしている。
- 他者と意見を共有したり、協働的に学習したりすることで、より前向きに学びに向かおうとしている。
- 探究活動を通して、自己理解を深めるとともに自己肯定感を高揚していく。
- 探究学習を通して、自ら課題を見つけ、解決する力をつけていく。

学習活動、指導方法等

【第1学年】

- 学習活動：・オリエンテーション
  - ・テキストを使って探究学習のプロセスを学ぶ。課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現→ふりかえりのサイクルを回す
- 指導方法：・担任と副担任がTT体制をとり、探究学習のプロセスの個別支援をする。
  - ・外部人材の活用

【第2学年】

- 学習活動：・オリエンテーション
  - ・課題の設定
  - ・グループ活動や他者との意見交換を通して各自の課題を深める。
  - ・情報の収集・整理の過程で積極的にフィールドワーク等を行う。
  - ・プレゼンテーションや発表会などの表現活動を行う。
- 指導方法：・カテゴリを分け、ゼミ形式で指導する。班は1～4名編成。
  - ・個々の課題をより深めさせる支援・アドバイスをを行う。
  - ・外部人材の活用

【第3学年】

- 学習活動：・進路別(就職・進学)に分かれた学習
- 指導方法：・進路別に分かれ、各自の課題に取り組ませる。進路指導部と連携し、ガイダンスなどの企画を取り入れる。

指導体制(環境整備、家庭・地域との連携)

- 学習指導部が全体を設計し、各学年の主任・担任・副担任を中心に指導を行う。
- 県事業「チャレンジ・プロジェクト」(探究活動型)を管轄しているチャレンジ・プロジェクト委員会(教頭・教務主任・学習指導部・進路指導部長・各学年主任・JRC)との連携。
- 外部講師との連携など適宜必要な情報を提供しながら、全教師が指導にあたる。
- テーマ別学習やフィールドワークなどを通して、社会性、協調性を身につけさせ、他者との協働により、地域社会に求められる人材の育成を目指す。
- 本校で実施される探究発表会を記事やリーフレットにまとめ、ホームページを通して、広く地域や家庭に発信する。
- 企業訪問および大学説明会への参加を通して、情報の共有を十分行い、生徒の進路指導に役立てる。